

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(9月5日～9月11日)

2022年12月13日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- シュルツ在ベラルーシ欧州連合(EU)代表部臨時代理大使の一時拘束(9月6日)
- スノプコフ第一副首相は、中国に対するドル建て債務を人民元で償還する旨発言(9月6日)
- 英チャタムハウスが、2022年8月実施の世論調査結果を発表(9月9日)
- ミンスク市は、ロシアの支配下にあるクリミアのセヴァストポリ市「政府」と協力協定を締結(9月10日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●国籍に関する法改正と恩赦の実施に関する会合

・クブラコフ内務大臣は、国籍に関する法律を改正し、ベラルーシ国外にいる人物が、テロ行為やベラルーシの国益の著しく損なったことが裁判所の判決によって確定する場合、同人のベラルーシ国籍を剥奪できるよう、また該当者に対し、国籍剥奪後、最大で30年間ベラルーシ入国を禁止できるようにすることを提案。

・ルカシェンコ大統領は、国籍に関する法律の改正にあたっては、同法案の最終版を「まともな野党勢力」も同席する特別委員会で審議すべきである旨指摘。

・シヴェド検事総長は、恩赦の対象に関し、人数は約8,000人で、自らの行為を真に悔やんでいて、大統領に恩赦を願い出ることができる者のみとした上で、テロリストは対象外である旨強調

(9月6日 大統領府、国営ベルタ通信)

●北朝鮮「建国」記念日に寄せたルカシェンコ大統領から金正恩・朝鮮労働党総書記に宛てた祝電

祝電は要旨以下のとおり。

・この祝賀に寄せて、ベラルーシ国民と北朝鮮人民の歴史的な運命の相似を想起すべき。

・両国民は、自国の独立及び主権国家として継続して発展する権利を獲得し、維持するために多大な犠牲を払ってきた。友好、信頼、相互の尊重が、ベラルーシと北朝鮮の両国関係の基本にあり、それらにより、様々な分野における両国間の協力が、現在また将来の世代のために拡大することを確認。

(9月9日 大統領府)

●英女王エリザベス2世の崩御を受け、弔電を発出

(9月9日 大統領府)

【外交】

●シュルツ在ベラルーシ欧州連合(EU)代表部臨時代理大使の一時拘束

(1)シュルツ臨時代理大使の一時拘束

・9月6日、シュルツ当地EU代表部臨時代理大使が、「無政府主義者事件」及び人権活動家マルファ・ラプコヴァ氏に対する裁判の後に拘束され、ミンスク市フルンゼ区内務省支部(区警察署)に連行され、約2時間にわたって拘留された。

・本件は、シューベル在ベラルーシEU代表部大使(2021年中頃に、ベラルーシ当局の要請により出国し、以後はベラルーシ国外で活動中)及びブリュッセルのEU上層部にも報告された。

・人権団体によれば、判決申し渡しの後、裁判所の建物近くで、被告の親族や人権活動家アナスタシア・ロイコ氏等の少なくとも13人が拘束された。

(2)本件に対する在ベラルーシEU代表部の声明

・9月6日のシュルツ臨時代理大使の拘束は受け入れられるものではなく、外交官の地位に対する腹立たしい侵害。

・拘束は、ミンスク市裁判所の建物の出口で、10人の事件政治犯に不当に長く重い判決が言い渡された直後に発生。

・今般の外交官の拘束は、外交官の身体の不可侵を保障する外交に関するウィーン条約の深刻な違反であり、ベラルーシにおける外交官の安全に疑念を抱かせるもの。EUの外交官に対するこのような不法な拘

束は、既に2度も発生している。

・欧州対外活動庁(EEAS)は、この深刻な事案を説明させるため、ブリュッセル駐在のベラルーシの臨時代理大使を既に召喚。

(9月7日 BPN、「ゼルカロ(鏡)」)

●ベラルーシ外務省は、シュルツ在ベラルーシ欧州連合(EU)代表部臨時代理大使を召喚

本件に関しグラス外務報道官は要旨以下を述べた。

・外交関係に関するウィーン条約には外交使節団の機能が定められているが、その中にはあちこちの裁判所をぶらついたり、司法制度・検察制度・弁護士の活動を評価することなど含まれていない。

・2021年7月に外務省から当地EU代表部に、ベラルーシの国家機関の訪問にあたっての手続きを口上書で伝達しているが、それに対するあからさまな違反がみられる。

・9月8日、当地EU代表部臨時代理大使を外務省に召喚し、挑発によって生じ得る結果につき厳しく伝達するとともに、当地EU代表部に対する追加的な対抗措置につき通報。

(9月8日 外務省)

●国営メディアを通じた欧州各国外交団に対する嫌がらせ

・9月6日、政治犯10人に対する判決申し渡しの傍聴のためにミンスク市裁判所に来訪していた外交団(特にシュルツ当地欧州連合(EU)代表部臨時代理大使)に対し、アザリョノク国営「首都テレビ(STV)」司会者が執拗に質問。

・9月8日、グロドノ州リダのポーランド軍兵士の墓地に献花に訪れた外交団に対し、グラトカヤ国営「ソヴェツカヤ・ベロルシア」紙記者が執拗に質問。

・当地EU代表部はベラルーシ当局に対し、国営メディアがこのように外交団につきまとして外交活動を妨害している状況を解決するよう申し入れ。

(9月6日 国営「首都テレビ(STV)」、アザリョノクSTV司会者 Telegram、「我らの家(ナシャ・ニヴァ)」紙、9月8日 グラトカヤ国営「ソヴェツカヤ・ベロルシア」紙記者 Telegram、Zerkalo)

●9月10日、ミンスク市執行委員会(市役所)は、ロシアの支配下にあるクリミアのセヴァストポリ市「政府」と協力協定を締結

・ベラルーシ政府は、クリミアがロシアの一部であると認める正式な法的手続きこそ取っていないものの、ルカシェンコ大統領は、クリミアは事実上ロシアのものであると何度も述べており、ベラルーシ当局とロシアの支配下にあるクリミア「当局」が事実上協力関係にあることを認めている。

(9月10日 国営ベルタ通信、BPN)

【内政】

●9月8日現在の政治犯の数は1,331人

(9月9日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【治安・軍事】

●国防省発表:司令部演習の実施

・9月8日から14日まで、ベラルーシ軍は司令部演習を実施。ブレスト州、ミンスク州、ヴィテプスク州で実動訓練が行われる。

・参加兵力・参加機材の数は、2011年ウィーン文書に基づく通報の義務を負う水準を超えない。

・ミンスク駐在武官団が視察に招待されている。また9月8日には、国防省から武官団対象のブリーフィングも実施。

(9月8日 国防省)

●国家国境委員会による、国境での武器の摘発

・9月6日、ラトビアとの国境検問地点「ベニャコニ」で、空気銃とゴム製警棒が没収される。

・9月10日、リトアニアとの国境検問地点「コトロフカ」で、弾薬8発を運んでいた車が摘発される。

(9月6日、12日 国家国境委員会)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(9月5日～10日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも490人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも83人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも164人を阻止。

(9月6日～11日 BPN)

【経済】

●中国から調達したドル建て債務の人民元での償還

・9月6日、ルカシェンコ大統領はスノプコフ第一副首相との会談で、①対中国関係、②輸入代替、③支払いや金融に関する政府からベラルーシ企業に対する支援の状況につき報告するよう指示。

・大統領との会談後、スノプコフ第一副首相は、①中国から借り入れたドル建て債務を人民元で償還すること、②「UnionPay」の導入や中国版の SWIFT にあたる「人民元国際決済システム」への接続が進んでいること、③制裁の影響を中国を通じて克服できていること等発言。

(9月6日 大統領府、国営ベルタ通信)

【抗議勢力の動き】

●セルゲイ・チェレチェニ元大統領候補が、「ベラルーシ社会民主主義フラマダ」(未公認野党)党首に再選

(9月10日 同氏フェイスブック)

【その他】

●英チャタムハウスによる世論調査(2022年8月)

調査結果は要旨以下のとおり

(1)戦争に対する態度

・露軍の軍事行動は、依然としてベラルーシの都市住民から支持されていない。露によるウクライナ侵略戦争のもたらす影響は、ベラルーシ全般にとっても個人にとっても否定的という見立て。

・ベラルーシ社会には、露によるウクライナ侵略戦争から距離を置きたいとの願望があり、ベラルーシがこの紛争において中立を表明することへの要望が高まっている。ベラルーシ人は、自国軍の全面的な参戦があるとは考えておらず、仮にベラルーシ軍が参戦する場合でも、軍部隊が自発的に命令を遂行すると考えられているのは回答者の僅か5分の1。

・ベラルーシ軍の兵士がウクライナで戦うことを拒否するとしても、ベラルーシ社会で批判されることはない。

・ベラルーシの都市住民の41%は、露軍がウクライナとの戦争の過程で非武装の一般市民に武器を使用しないと考えている。

(2)外交に対する見方

・各国に対する態度は、露によるウクライナ侵略戦争の開始後に変化しており、その後は比較的安定。

・ベラルーシ人は、露軍が自国領内に常駐することに反対。ベラルーシ領内への露の核兵器の配備には断固反対。

・この半年間で、露とも欧州連合(EU)とも同時に同盟関係にあるという等距離外交の支持者が減少。露との同盟の支持者は37%で横ばい。

(3)利用するメディアの影響力

・露の行動に対する支持は、ベラルーシの国営・露の国営・露の独立系メディアの利用と相関関係にあり(国営メディア利用者は特に強烈)。この相関関係は、地政学的な志向にも明確に現れ、特に露及びウクライナに対する態度に顕著に見られる。

(9月9日 英チャタムハウス、Reform.by、「ゼルカロ(鏡)」)

(了)